

| 授業 科目名 | 事後指導 Post-guidance for Practical Training | 履修年次: 必修: 栄3年 | 単位数: 1 単位 30 時間 | 担当教員名: <u>科目責任者 荒井裕介</u> (研究室: 教育棟 A212) 谷内洋子・工藤美奈子 [管理栄養士 (全員)] | | |
|--|---|---|------------------------------|--|--|--|
| | | コード: NT0305 | 実務経験のある教員による授業科目 | | | |
| 〔DP〕 IV 健康づくりの実践、III 実践に必要な知識、VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽 | | | | | | |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の実習内容、研究課題等をまとめ、プレゼンテーションができる。 ・臨地実習を振り返り、自らの今後の目標と課題を考えることができる。 ・実習を踏まえて、専門職としてのるべき姿について自ら考えることができる。 | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 | | | | | | |
| <p>臨地実習後はそれぞれの実習施設における実習内容、研究課題報告、さらに実践の場で学んだ事項などを情報交換指導などにおいて総合的な事後指導を行い、校内での学習と臨地実習を有機的に結びつけ、知識と技術の統合に努める。</p> <p>実務経験のある教員により、各分野の臨地実習の振り返りから、管理栄養士を目指す学生自らの目標と課題を考える支援をする。</p> | | | | | | |
| キーワード: 臨地実習、省察、プレゼンテーション、管理栄養士、プロフェッショナリズム | | | | | | |
| 〔授業計画〕 | | | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 | 担当 | | |
| 第1, 2回 | 11/19 | 臨地実習のまとめ | 臨地実習の振り返り | 谷内洋子 | | |
| 第3, 4回 | 11/26 | 臨地実習のまとめ | 報告会に向けたまとめ、準備 | 荒井裕介他 | | |
| 第5, 6回 | 12/3 | 給食経営管理臨地実習 | 実習報告会 | 工藤美奈子 | | |
| 第7, 8回 | 12/10 | 公衆栄養臨地実習 | 実習報告会 | 荒井裕介 | | |
| 第9, 10回 | 12/17 | 臨床栄養学臨地実習 | 実習報告会 | 谷内洋子 | | |
| 第11, 12回 | 1/7 | 報告会のまとめ | 合同報告会に向けたまとめ、準備 | 荒井裕介他 | | |
| 第13~15回 | 2/4 | 3科目合同報告会 | 臨地実習3科目合同報告会 (2年生、学科教員参加) | 荒井裕介他 | | |
| 履修条件 | | 臨地実習を受ける履修条件を満たした者 | | | | |
| 予習・復習 | | 自らの実習内容とその学びを簡潔に発表できるよう、臨地実習ノート等を見直して振り返りをし、まとめておくこと。 | | | | |
| テキスト | | 臨地実習テキスト、臨地実習ノート (大学作成) | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | 適宜指示する | | | | |
| 学生に対する評価 | | 発表・討議 (80%)、日頃の学習態度(20%)に評価する | | | | |

| 授業 科目名 | 食生活教育論 Proper Nutrition Education | 履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程選択者必修) | 単位数: 2単位 30時間 コード: NTT201 | 担当教員名: 鈴木 亜夕帆 (A棟214研究室) | | |
|---|---|---------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|--|--|
| | | | | | | |
| 〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、IV 健康づくりの実践 | | | | | | |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕 | | | | | | |
| 義務教育諸学校で学ぶ児童・生徒への食に関する指導を行うにあたり、栄養教諭としての食と栄養に関する教育のための基本的、専門的、かつ総合的な知識と考え方を身に付けることを目標とする。 | | | | | | |
| テーマ: ①食の歴史と文化。②子どもの食課題。③栄養教諭の役割。④学校給食。⑤食育の方法。⑥保護者・地域の連携 | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 | | | | | | |
| 食生活に関する歴史と文化、栄養教諭の役割と職務内容、学校給食の意義・役割、健康と食に関する課題、子どもの食生活の課題、子どもへの食に関する指導、個別相談指導のあり方を学習する。各種資料・研究結果に基づく資料により食生活教育の役割を、学校給食を「生きた教材」としながら理解し実践する。 | | | | | | |
| キーワード: 栄養教諭、子ども、食生活、給食、健康、食育 | | | | | | |
| 〔授業計画〕 ※履修人数により変更することがあります | | | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ　マ | 内　容 | | | |
| 第1回 | 4/9 | ガイダンス、食生活の歴史と文化 | 何を学ぶか。食生活に関する歴史、文化的事項 | | | |
| 第2回 | 4/16 | 幼児・児童・生徒の食に関する事項 | 食育推進計画、食に関する指導の手引き。社会的事情、法令、諸制度等。 | | | |
| 第3回 | 4/23 | 幼児・児童・生徒の栄養の現状 | 子どもたちの栄養、国民の栄養をめぐる諸事情の理解 | | | |
| 第4回 | 4/30 | 学校における栄養教育の必要性 | 子どもたちの栄養の指導、管理の意義 | | | |
| 第5回 | 5/7 | 栄養教諭の職務と役割 | 栄養教諭の職務内容、使命、役割 | | | |
| 第6回 | 5/14 | 学校給食 | 学校給食の意義、役割 | | | |
| 第7回 | 5/21 | 食に関する個別的な指導 | アレルギーへの対応、特別な配慮への対応を考える | | | |
| 第8回 | 5/28 | 模擬授業ガイダンス | 模擬授業の視点、方法についてのガイダンス | | | |
| 第9回 | 6/4 | 食に関する指導の実際① | 子どもたちの実態、学校全体の食に関する指導の実際 | | | |
| 第10回 | 6/11 | 食に関する指導の実際② | 栄養教諭による食に関する指導の実際 | | | |
| 第11回 | 6/18 | 家庭、地域と連携した食に関する指導 | 家庭、地域と連携する意義、具体的な方法を考える | | | |
| 第12回 | 6/25 | 子どもたちへの食育の実際 | 食育の方法の実践例 | | | |
| 第13回 | 7/2 | 食育に関する教材、情報 | 食生活教育を推進する資料とその活用 | | | |
| 第14回 | 7/9 | 模擬授業、検討会① | 給食の時間の食に関する指導の模擬授業・検討会 | | | |
| 第15回 | 7/16 | 模擬授業、検討会②、まとめ | 〃 模擬授業・検討会。まとめ | | | |
| 履修条件 | 特になし | | | | | |
| 予習・復習 | 予習: 授業で使用する資料の熟読。復習: 課題を含めた振り返り。 | | | | | |
| テキスト | 「食に関する指導の手引第二次改訂版」東山書房。「小学校学習指導要領(平成29年告示)」「〃総則編」「〃特別の教科道徳編」「〃総合的な学習の時間編」「〃特別活動編」「〃家庭科編」。「中学校学習指導要領(平成29年告示)」「〃総則編」「〃特別の教科道徳編」「〃総合的な学習の時間編」「〃特別活動編」「〃家庭科編」。 | | | | | |
| 参考書・参考資料等 | 「日本人の食事摂取基準2025」、「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」他 | | | | | |
| 学生に対する評価 | 学習態度(50%)、課題(50%)により総合的に評価。 | | | | | |

| 授業 科目名 | 学校栄養教育論 Nutrition Education for School | 履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程選択者必修) | 単位数: 2単位 30時間 コード: NTT301 | 担当教員名: 鈴木 亜夕帆 (A棟214研究室) | | | | | |
|--|--|---|--|--------------------------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| 〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、IV 健康づくりの実践 | | | | | | | | | |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕 | | | | | | | | | |
| 栄養教諭課程で学んだことを基礎として、栄養教諭の役割及び職務内容の全体像を理解し、義務教育学校で学ぶ児童、生徒に栄養教諭として授業を行うことができる目的とする。 | | | | | | | | | |
| テーマ: ①栄養教諭としての授業展開、指導内容。②具体的な学習指導案。③学び続ける栄養教諭 | | | | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 | | | | | | | | | |
| 栄養教諭の役割と職務内容、教材としての学校給食、食に関する指導の年間計画の策定、学校教育と栄養教育、栄養教諭の食育コーディネーターとしての役割などを学習し、個別的な相談指導の計画、模擬授業（学習指導案の作成、相互評価）などを通して、学校における食に関する指導の方法を理解し、指導計画を立てることができることを目指す。 | | | | | | | | | |
| キーワード: 栄養教諭、学校、学習指導案、個別的な相談指導、全体計画、給食 | | | | | | | | | |
| 〔授業計画〕 ※履修人数により変更することがあります | | | | | | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 | | | | | | |
| 第1回 | 11/20 | ガイダンス。栄養教諭と学校教育 | 何を学ぶか。栄養教諭としての立場、役割。授業、個別指導。 | | | | | | |
| 第2回 | 11/27 | 教育実習の実際 | 教育実習体験者からの講義等を通して、子どもへの栄養指導及び管理の現状と課題を知る | | | | | | |
| 第3回 | 11/27 | 食に関する「授業」とは | 授業を行うということ。学習指導案とは何か。 | | | | | | |
| 第4回 | 12/4 | 小学校における授業の実際 | 小学校教諭による教科を中心とした食に関する指導の実際 【特別講師】 | | | | | | |
| 第5回 | 12/4 | 模擬授業ガイダンス 授業の内容を考える① | 模擬授業ガイダンス。 「どのように学ぶか」を考える | | | | | | |
| 第6回 | 12/11 | 栄養教諭による授業の実際 | 栄養教諭による食に関する指導（授業および個別指導）の実際 【特別講師】 | | | | | | |
| 第7回 | 12/11 | 授業の内容を考える② | 何ができるようになるかを考える（教科） | | | | | | |
| 第8回 | 12/18 | 授業の内容を考える③ | 何ができるようになるかを考える（特別活動、総合、道徳） | | | | | | |
| 第9回 | 12/18 | 個別的な相談指導 | 栄養教諭による個別的な相談指導を計画する | | | | | | |
| 第10回 | 1/8 | 模擬授業① | 道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業 | | | | | | |
| 第11回 | 1/8 | 検討会① | 模擬授業検討会 | | | | | | |
| 第12回 | 1/22 | 模擬授業② | 道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業 | | | | | | |
| 第13回 | 1/22 | 検討会② | 模擬授業検討会 | | | | | | |
| 第14回 | 1/29 | 模擬授業③ | 道徳、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業 | | | | | | |
| 第15回 | 1/29 | 検討会③、まとめ | 模擬授業検討会。まとめ | | | | | | |
| 履修条件 | | 特になし | | | | | | | |
| 予習・復習 | | 予習：授業に関するこれまでの学びを復習。復習：課題を含めた振り返り。 | | | | | | | |
| テキスト | | 前期「食生活教育論」と同様。（「食に関する指導の手引第二次改訂版」。「小学校学習指導要領（平成29年告示）」及び解説編、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」及び解説編。） | | | | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | 「日本人の食事摂取基準2025」、「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」他 | | | | | | | |
| 学生に対する評価 | | 学習態度（50%）、課題（50%）により総合的に評価。 | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|---|--------------------------------------|--------------------|---------------------------------|
| 授業 科目名 | 教職論 Introduction to the teaching profession | 履修年次: 自由: 栄1年 (教職課程選択 者は必修) | 単位数: 2 単位 30 時間 | 担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10) |
| | | | コード: NTT101 | |

[DP] I. 倫理観とプロフェッショナリズム II. コミュニケーション能力 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業の到達目標は、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務内容」「チーム学校運営への対応」などの事項の理解を通して、教師として必要となる基礎知識を身につけるとともに、教師としての自覚と関心・意欲を高め、自らの教師像を科学的・論理的に説明できるようになることである。

[授業の概要]

本授業では教職の意義及び教員の役割・職務内容について概説しつつ、栄養教諭とは何かを深く追究する内容とする。受講生自身が行う作業やグループディスカッションの機会を多く設け、理解を深めつつ進める。教師・児童生徒・保護者それぞれの立場から多面的に考えることで実践力を養っていく。

キーワード: 栄養教諭、教員免許状、教育公務員、チーム学校、資質・能力観

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ 一 マ | 内 容 |
|------|------|--------------|---------------------------|
| 第1回 | 4/14 | オリエンテーション | 授業計画、授業概要、評価方法の説明、栄養教諭の現状 |
| 第2回 | 4/21 | 教職の意義① | 教職の職業的特徴、多職種との比較 |
| 第3回 | 4/28 | 教職の意義② | 教育の今日的動向 |
| 第4回 | 5/12 | 教職の意義③ | 公教育の目的、教員の存在意義 |
| 第5回 | 5/19 | 教員の役割① | 教職観の変遷 |
| 第6回 | 5/26 | 教員の役割② | 今日の教員に求められる役割 |
| 第7回 | 6/2 | 教員の役割③ | 今日の教員に求められる基礎的な資質能力 |
| 第8回 | 6/9 | 教員の職務内容① | 教員に課せられる服務義務、身分上の義務 |
| 第9回 | 6/16 | 教員の職務内容② | 教員の職務の全体像 |
| 第10回 | 6/23 | 教員の職務内容③ | 教員研修の意義及び制度上の位置づけ |
| 第11回 | 6/30 | 教員の職務内容④ | 専門職としての職務遂行、生涯学習 |
| 第12回 | 7/7 | チーム学校運営への対応① | 学校の役割の拡大化・多様化 |
| 第13回 | 7/14 | チーム学校運営への対応② | 専門家との連携・分担 |
| 第14回 | 7/23 | チーム学校運営への対応③ | チーム学校のなかの栄養教諭の位置 |
| 第15回 | 7/28 | 教職をめぐる今後の諸課題 | 本授業のふりかえりとまとめ |

| | |
|-----------|---|
| 履修条件 | 教職課程履修者 |
| 予習・復習 | 予習として配布資料を熟読のこと。復習はレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、課題・レポートに取り組むこと。 |
| テキスト | 汐授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 見稔幸他 (2021) 『現代の教師論』ミネルヴァ書房 |
| 学生に対する評価 | 学習態度 (20%)、ディスカッションへの参加 (30%)、課題・レポート (50%)による総合評価。 |

| | | | | |
|-----------|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 授業 科目名 | 教育学概論 Introduction to Pedagogy | 履修年次: 自由: 栄2年 (教職課程選択 者は必修修) | 単位数: 1単位 15時間 コード: NTT102 | 担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟10) |
| | | | | |

[DP] I. 倫理観とプロフェッショナリズム VI. 他職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業の到達目標は、教育の基礎的概念を習得しつつ、教育思想の系譜をたどり自らの教育観を省察すること、外国と日本の教育史を通して、自らの体験を振り返りながら、現代の教育現場が抱える問題への解決策を見出し、確かな見識がもてるようになることである。

[授業の概要]

本授業は、教育者となるために必要な教育の基礎知識を以下の四つの観点から概説する。第一に教育学の入門として必要となる諸概念と教育の理念・原理について、第二に西洋教育史及び思想の源泉とその系譜について、第三に近世から戦後にわたる日本教育史及び思想の源泉とその系譜について、第四に現代社会における様々な教育課題についてである。受講生自身が作業を行う機会を多く設け、理解を深めつつ授業を進める。

キーワード: 日本国憲法、教育基本法、子ども観、公教育、教育思想

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 |
|--------------|-------|------------------|-------------------|
| 第1回 | 10/2 | オリエンテーション | 授業計画、授業概要、評価方法の説明 |
| 第2回 | 10/9 | 教育に関する思想・歴史（西洋）① | 教育学の諸概念 |
| 第3回 | 10/16 | 教育に関する思想・歴史（西洋）② | 家族と社会による教育の歴史 |
| 第4回 | 10/23 | 教育に関する思想・歴史（西洋）③ | 近代公教育思想の源流 |
| 第5回 | 10/30 | 教育に関する思想・歴史（日本）① | 近代日本における教育制度の成立 |
| 第6回 | 11/6 | 教育に関する思想・歴史（日本）② | 大正・昭和前期の教育の特徴 |
| 第7回 | 11/13 | 教育に関する思想・歴史（日本）③ | 戦後日本における教育改革 |
| 第8回 (45分) | 11/20 | 現代社会と今日の教育課題 | 本授業のまとめ |

| | |
|-----------|--|
| 履修条件 | 教職課程履修者 |
| 予習・復習 | 予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。 |
| テキスト | 授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 古沢常雄・米田俊彦編（2017）『教育史』学文社。 |
| 学生に対する評価 | 学習態度（20%）、ディスカッションへの参加（30%）、課題・レポート（50%）による総合評価。 |

| 授業 科目名 | 教育心理学 (Educational Psychology) | 履修年次:栄養1・2 年(教職課程選択者必修) /リハ1・2年 | 単位数: 2 单位 コード: | 担当教員名: 鈴木 淳子 (非常勤講師室) | | |
|---|-----------------------------------|--|------------------------------|-----------------------------|--|--|
| | | | | | | |
| 〔DP〕 III 実践に必要な知識、VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽、I 倫理観とプロフェッショナリズム | | | | | | |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕 | | | | | | |
| 本授業では、学校現場で活かすための必要な教育心理学の知識と理論を習得して、自らのことばで説明できるようになることを目的とする。 | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 効果的な教育活動方法について考えるためには、教わる側である子ども、教える側である教師、教わる場である学校や教室環境について科学的知見に基づいた知識を身につけていくこと、およびそれらの知識を実践の場で活かすための思考力や判断力、応用力を身につけることが必要である。そこで本講義では、教職課程における教育心理学の位置づけを意識しながら、ヒトの心身の発達や成長、認知過程、記憶と忘却のメカニズムなど、現場に活かすための理論や知見を学ぶ。 | | | | | | |
| キーワード:モチベーション、学級経営、発達、パーソナリティ | | | | | | |
| 〔授業計画〕 | | | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ　ー　マ | 内　容 | | | |
| 第1回 | 10月3日 | 発達研究の歴史 | 「発達研究」の歴史を振り返り、「発達」の考え方を理解する | | | |
| 第2回 | 10月10日 | 発達段階と発達課題 | 発達段階に応じた発達課題の理論 | | | |
| 第3回 | 10月17日 | 感情の発達 | 感情にと感情の発達に関する理論 | | | |
| 第4回 | 10月24日 | 学習理論Ⅰ | 古典的条件づけと道具的条件づけ | | | |
| 第5回 | 10月31日 | 学習理論Ⅱ | 観察学習、認知発達の理論 | | | |
| 第6回 | 11月7日 | 記憶 | 記憶のメカニズムと理論 | | | |
| 第7回 | 11月14日 | 知能 | 知能とは何か?および知能の測定、AI | | | |
| 第8回 | 11月21日 | モチベーションⅠ | 内発的動機づけ、自己決定理論、接近・回避動機づけ | | | |
| 第9回 | 11月28日 | モチベーションⅡ | 他者志向動機、自己認知、達成目標理論等 | | | |
| 第10回 | 12月5日 | パーソナリティ | パーソナリティの理論と測定 | | | |
| 第11回 | 12月12日 | 学校集団～学級経営 | 学級とより良い学級運営 | | | |
| 第12回 | 12月19日 | 学校適応と学校不適応 | 学校不適応の現状把握と子どもとのかかわり方 | | | |
| 第13回 | 1月9日 | 学習評価と教育評価 | 学習指導や評価の理論とその実践 | | | |
| 第14回 | 1月23日 | 発達障がいの理解 | 発達障がいの理解と支援 | | | |
| 第15回 | 1月30日 | 本講義の総括 | 本講義の総括 | | | |
| 履修条件 | | 特になし | | | | |
| 予習・復習 | | 予習：その日の課題に自習のテーマを提示する、復習：授業資料を見直す | | | | |
| テキスト | | 使用しない | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | 特になし | | | | |
| 学生に対する評価 | | 試験(50%)、グループワーク(15%)、ミニ課題(25%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。 | | | | |

| 授業 科目名 | 教育制度論 Educational Systems | 履修年次: 自由: 栄2年 (教職課程選択 者は必修修) コード: NTT104 | 単位数: 1単位 15時間 | 担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟10) |
|--|------------------------------|--|-------------------|--------------------------------|
| [DP] II. コミュニケーション能力 VI. 多職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽 | | | | |
| [授業の到達目標及びテーマ] | | | | |
| 本授業の到達目標は、教育者になるために、日本の学校や教育行政機関の目的やその実現について、経営の観点から理解できるようになることである。具体的には、公教育の目的、学校経営の望ましい姿、教育活動の年間の流れ、学校評価、学級経営の仕組みと効果的な方法を理解し、教員としての基礎的知識を身につけ、そこにどのような問題があるかを発見し、自ら発信できるようになることである。 | | | | |
| [授業の概要] | | | | |
| 本授業は、学級経営の理論と方法について概説する。そのうえで、近年、問題となっている、いじめ、不登校、部活動、子どもの貧困、道徳教育、食育、学校事故などの事例を素材とし、社会的、制度的、及び経営的視点から考察する態度を養う。グループ・ディスカッションや学生自身が作業を行う機会を多く設け、理解を深めつつ授業を行う。 | | | | |
| キーワード: 日本国憲法、教育基本法、子ども観、公教育、教育思想 | | | | |
| [授業計画] | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 | |
| 第1回 (45分) | 11/20 | オリエンテーション | 授業計画、授業概要、評価方法の説明 | |
| 第2回 | 11/27 | 教育に関する経営的事項① | 学級経営の理論① | |
| 第3回 | 12/4 | 教育に関する経営的事項② | 学級経営の理論② | |
| 第4回 | 12/11 | 教育に関する経営的事項③ | 学級経営の方法① | |
| 第5回 | 12/18 | 教育に関する経営的事項④ | 学級経営の方法② | |
| 第6回 | 1/8 | 学校と地域の連携 | 地域との連携・協働による学校づくり | |
| 第7回 | 1/22 | 学校安全への対応 | 学校保健安全法、危機管理 | |
| 第8回 | 1/29 | 教育制度をめぐる今後の諸課題 | 栄養教諭制度をめぐる今日的課題 | |
| 履修条件 | | 教職課程履修者 | | |
| 予習・復習 | | 予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。 | | |
| テキスト | | 授業内で適宜、資料を配布する。 | | |
| 参考書・参考資料等 | | 田中耕治 (2022) 『学級経営の理論と方法』ミネルヴァ書房。 | | |
| 学生に対する評価 | | 学習態度 (20%)、ディスカッションへの参加 (30%)、課題・レポート (50%)による総合評価。 | | |

| | | | | |
|-----------|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 授業 科目名 | カリキュラム論 Curricular studies | 履修年次: 自由: 栄2年 (教職課程選択 者必修) | 単位数: 1単位 15時間 コード: NTT105 | 担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟10) |
| | | | | |

[DP] I. 倫理観とプロフェッショナリズム III. 実践に必要な知識 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業の到達目標は、以下の三点である。第一に学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、学習指導要領の性格及び位置づけや変遷、その社会的背景について、自らの言葉で説明できるようになること、第二に教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができるようになること、第三に教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、カリキュラム・マネジメントについて、自らの言葉で説明できるようになることである。

[授業の概要]

本授業では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を概説するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性への理解を深める。その上で、受講生自身が文献講読等において主体的にレポートし、ディスカッションによって内容理解を深めていくほか、共通課題を設定してグループでの課題探究を行う。

キーワード: 教育課程編成、カリキュラム・マネジメント、学習指導要領、カリキュラム評価

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ 一 マ | 内 容 |
|--------------|------|----------------|----------------------------|
| 第1回 | 4/10 | オリエンテーション | 授業計画、授業概要、評価方法の説明、学習指導要領とは |
| 第2回 | 4/17 | 教育課程の意義 | 教育課程編成の理論と方法 |
| 第3回 | 4/24 | 教育課程編成の方法① | 教科書・教材研究・事例研究① |
| 第4回 | 5/1 | 教育課程編成の方法② | 教科書・教材研究・事例研究② |
| 第5回 | 5/8 | 教育課程編成の方法③ | 教科書・教材研究・事例研究③ |
| 第6回 | 5/15 | カリキュラム・マネジメント① | カリキュラム・マネジメントの意義 |
| 第7回 | 5/22 | カリキュラム・マネジメント② | カリキュラム評価の基礎 |
| 第8回 (45分) | 5/29 | 教育評価の方法 | 教育評価の意義と方法 本授業のふりかえりとまとめ |

| | |
|-----------|---|
| 履修条件 | 教職課程履修者 |
| 予習・復習 | 予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題に取り組むこと。 |
| テキスト | 授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 原清治 (2018)『教育課程・教育評価』ミネルヴァ書房／『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 |
| 学生に対する評価 | 学習態度 (20%)、ディスカッション (30%)、課題・レポート (50%) による総合評価。 |

| 授業 科目名 | 特別支援教育論 | 履修年次: 自由:栄3年(教 職課程必修) | 単位数: 1 単位 15時間 コード: NTT202 | 担当教員名: 斎藤 遼太郎 (研究室:非常勤講師室) |
|---|---------|------------------------------------|---|----------------------------------|
| 〔DP〕 I. 倫理観とプロフェッショナリズム, VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽, VI. 多職種との協働 | | | | |
| 〔授業の到達目標及びテーマ〕 | | | | |
| <p>・授業の到達目標: 1. 発達障害等の特性と支援方法について説明できる。2. 特別の教育的ニーズについて、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。3. 具体的な場面で、支援方法を活用することができる。</p> <p>・テーマ: 1. 発達障害等の特性と支援方法の理解。2. 特別支援教育制度の基本的事項の理解。</p> | | | | |
| 〔授業の概要〕 小学校等の通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別の支援を必要とする児童生徒について、各障害の特性や学習の過程と支援の方法について述べる。更に、「個別の指導計画」や「通級による指導」などといった特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と支援についても述べる。 | | | | |
| キーワード: 特別の教育的ニーズ、発達障害、学びの場の連続性、外国籍、貧困 | | | | |
| 〔授業計画〕 | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 | |
| 第1回 | 6/9 | インクルーシブ教育システムの理念と仕組み | 授業の概要説明と特別支援教育の目指す方向性 | |
| 第2回 | 6/16 | 特別支援教育コーディネーター及び関係機関や家庭との連携 | 特別支援教育コーディネーターと校内委員会の概要説明、関係機関や家庭との連携方法 | |
| 第3回 | 6/23 | 特別支援教育教育課程と個別の指導/支援計画 | 特別支援学級や通級による指導等の仕組み及び自立活動等の教育課程、個別の指導及び支援計画 | |
| 第4回 | 6/30 | 発達障害のある児童生徒の理解と支援方法 | 自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害の特性と支援方法 | |
| 第5回 | 7/7 | 軽度知的障害の理解と支援方法 | 軽度知的障害の特性と支援方法 | |
| 第6回 | 7/14 | 感覚障害(視覚障害、聴覚障害)の理解と支援方法 | 視覚障害、聴覚障害の特性と支援方法 | |
| 第7回 | 7/23 | 肢体不自由及び病弱の理解と支援方法 | 肢体不自由、病弱の特性と支援方法 | |
| 第8回 | 7/28 | 特別の教育的ニーズのある児童生徒の理解 | 母国語や貧困の問題等による特別の教育的ニーズ、授業全体のまとめ | |
| 履修条件 | | 教職課程履修者 | | |
| 予習・復習 | | 授業で習ったことをレジュメ・資料等で復習すること。 | | |
| テキスト | | 毎回授業時に配付する授業プリント。 | | |
| 参考書・参考資料等 | | 小学校学習指導要領(文部科学省、平成29年3月)など。 | | |
| 学生に対する評価 | | 学習態度(30%)、最終レポート(70%)によって総合的に評価する。 | | |

| 授業 科目名 | 教育の方法と技術 (Methods and Techniques of Education) | 履修年次: 自由: 栄3年 (教職課程 選択者必修) | 単位数: 2単位 30時間 | 担当教員名: 高木 啓 (研究室 非常勤講師控室) [DP] II コミュニケーション能力、I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識 | | |
|--|--|--|----------------------------|--|--|--|
| | | | コード: NTT203 | | | |
| [授業の到達目標及びテーマ] | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育目的、教育内容／学習内容の関連とともに、教育方法について考察できる。 ・教育方法学に関する基礎的知識を習得すると同時に、実践に必要な教育学的思考形式を形成することができる。 | | | | | | |
| [授業の概要] | | | | | | |
| <p>学習形態、授業設計と展開、教育メディア活用、学習評価、学習環境等について学校教育現場における学習指導活動を支える実践的な内容とその方法を概観するとともに、それらを活用した模擬演習を試みる。また、授業で情報機器を利用する場合に、目的に応じた使い分けの演習を行う。</p> <p>「教えられる側」から「教える側」になるためには何が必要かを、常に意識することを求める。</p> | | | | | | |
| キーワード: 教育方法学、子ども、教育内容・教材、発問、教育メディア、学習主体、学習評価 | | | | | | |
| [授業計画] | | | | | | |
| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 | | | |
| 第1回 | 4/15 | イントロダクション | 本授業の進め方や評価方法についての確認 | | | |
| 第2回 | 4/22 | 教育(方法) 学的思考 | 教育学ならびに教育方法学的な考え方 | | | |
| 第3回 | 5/13 | 「良い」教育方法とは | 段階教授法やALなど、良い教育方法を考える際の注意点 | | | |
| 第4回 | 5/20 | 子ども理解 | 成長する／変わりうる存在として子どもを理解するとは | | | |
| 第5回 | 5/27 | 対話的コミュニケーション | 対話的学びの可能性 | | | |
| 第6回 | 6/3 | 教科内容・教材 | 教材研究・教材解釈の難しさと楽しさ | | | |
| 第7回 | 6/10 | 教科内容から学習課題へ | 発問研究の成果とともに適切な学習課題とは何かを考える | | | |
| 第8回 | 6/17 | 教育メディアの活用 | 授業のねらいに応じた教育メディアとは | | | |
| 第9回 | 6/24 | 学習主体としての子ども | 主体的学びと学習主体の育成 | | | |
| 第10回 | 7/1 | 授業研究とは | 授業改善のための授業記録、授業分析、授業研究 | | | |
| 第11回 | 7/8 | 学習と学び | 日常生活における学びと授業における学び | | | |
| 第12回 | 7/15 | 学力とは何か | 様々な学力像の構造 | | | |
| 第13回 | 7/22 | 評価をめぐる様々な問題 | 指導するための評価のあり方とは | | | |
| 第14回 | 7/24 | 学級づくり | 学級づくり実践を通した子ども集団理解 | | | |
| 第15回 | 7/29 | まとめ | 授業全体を通したまとめ | | | |
| 履修条件 | | 教職課程履修者 | | | | |
| 予習・復習 | | 予習としてテキストを熟読しておくこと。復習としてレジュメやノートとともに授業内容を振り返ること。 | | | | |
| テキスト | | 高木啓・熊井将太編著(2025)『授業実践コンピテンシーを育む教育方法論』北大路書房。 | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | 授業内で紹介する。 | | | | |
| 学生に対する評価 | | レポート(60%)、授業内の発言や話し合いへの参加(40%)により評価する。 | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|---------------------------------|------------------|---|
| 授業 科目 名 | 道徳・総合的な学習・特別活動論 Morale Education / Integrated studies / Extra-curricular Activities | 履修年次: 自由: 栄2年 (教職課程選択者必修) | 単位数: 1単位 30時間 | 担当教員名: <u>科目責任者 広川由子</u> (研究室 図書館棟10) 寺田佳孝 (非常勤講師室) |
| | | | コード: NTT401 | |

[DP] IV. 健康づくりの実践 VI. 他職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業では、これまでの学修をふりかえりつつ、栄養教諭としての自己の力量を確認し、不足している知識や技能を補うことを目的とする。本授業の到達目標は、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童・生徒を理解する能力および生徒指導力、④栄養教諭の専門的知識、⑤「食に関する指導」力を獲得し、子どもたちを前に実践できるようになることである。

[授業の概要]

本授業は、教職に関する科目担当教員（広川）と、栄養に係る教育に関する科目担当教員（鈴木）がオムニバスにて行う。大学4年間で学んだ教職に関する知識の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な資質能力が身に付いているかどうかを学生および教員が相互に点検し、自己の到達点を自覚する。さらにそれを補いつつ、生涯にわたって学び続けるスキルを獲得する授業を提供する。学校訪問やロールプレイング、現職教員および教職経験者を交えた討論等により、実際に教壇に立つための実践力と問題解決能力を養う。

キーワード: 栄養教諭、資質・能力の向上、ICT活用力、チーム学校、教育DX

[授業計画]

| 回 数 | 日 付 | テ 一 マ | 内 容 | 担 当 |
|--------------|------------------------|-----------------|--------------|------|
| 第1回 (45分) | 5/29 | 道徳科の誕生 | いじめ・情報モラルの現状 | 広川由子 |
| 第2回 | 6/5 | 道徳科の授業実践① | 模擬授業とグループ討論① | 広川由子 |
| 第3回 | 6/12 | 道徳科の授業実践② | 模擬授業とグループ討論② | 広川由子 |
| 第4回 | 6/19 | 道徳科の授業実践③ | 模擬授業とグループ討論③ | 広川由子 |
| 第5回 | 8月21日集中講義 (詳細は後日周知) | 総合的な学習の時間の授業研究① | 教材研究とグループ討論① | 寺田佳孝 |
| 第6回 | 8月21日集中講義 (詳細は後日周知) | 総合的な学習の時間の授業研究② | 教材研究とグループ討論② | 寺田佳孝 |
| 第7回 | 8月21日集中講義 (詳細は後日周知) | 特別活動の授業研究① | 教材研究とグループ討論① | 寺田佳孝 |
| 第8回 | 8月21日集中講義 (詳細は後日周知) | 特別活動の授業研究② | 教材研究とグループ討論② | 寺田佳孝 |

| | |
|-----------|--|
| 履修条件 | 教職課程履修者 |
| 予習・復習 | 予習としてテキスト及び配布資料を熟読のこと。復習はテキスト及びレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題・レポートに取り組むこと。 |
| テキスト | 授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 学生に対する評価 | 学習態度(20%)、ディスカッション(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。 |

| | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 授業科目名： 生徒指導論 Student guidance | 履修年次： 自由：栄3年 (教職課程選択者は必修) | 単位数： 1単位 15時間 コード：NTT204 | 担当教員名： 広川由子 (研究室：図書館棟研究室10) |
| | | | |

[DP] II. コミュニケーション能力 IV. 健康づくりの実践 VI. 他職種との協働

〔授業の到達目標及びテーマ〕

本授業の到達目標は、児童生徒の権利保障を踏まえ、生徒指導の意義や原理について理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な基礎的知識・技能や素養を身に付けること、前向きな態度で実践し受講生本人が社会的資質や行動力を高めること、生徒指導の具体的な場面で児童生徒理解・指導・解決の見通しをつけることができるようになることである。

〔授業の概要〕近年、子どもたちの健康課題に取り組む栄養教諭の各学校への配置促進が望まれている。本授業では、生徒指導の基本や進め方を概説した上で、受講生自身が行う作業やグループディスカッションの機会を多く設け、理解を深めつつ進める。自らの体験をふりかえり、これまでの学校の「当たり前」を批判的に考察しつつ、どのように解決していくべきか、受講生自身が発見できることが重要である。本授業では、教師の立場・児童生徒の立場・保護者の立場など、多面的に考えることで、生徒指導の実践力を養っていく。

キーワード：子どもの権利条約、体罰と懲戒、子どもの貧困、ジェンダー、暴力・いじめ・不登校

〔授業計画〕

| 回 数 | テ 一 マ | 内 容 |
|---------------------|---------------------|------------------------|
| 第1回 (4/10) | 生徒指導における今日的課題 | いじめ・不登校・体罰・校則等の現状 |
| 第2回 (4/17) | 児童及び生徒全体への指導① | 生徒指導の基礎・意義・構造・チーム学校 |
| 第3回 (4/24) | 児童及び生徒全体への指導② | 各教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動 |
| 第4回 (5/1) | 児童及び生徒全体への指導③ | 校則・懲戒・体罰 |
| 第5回 (5/8) | 個別の課題に対する生徒指導① | いじめ・暴力行為・少年非行・児童虐待 |
| 第6回 (5/15) | 個別の課題に対する生徒指導② | 自殺・不登校・インターネット・性・発達障害 |
| 第7回 (5/22) | 個別の課題に対する生徒指導③ | 精神疾患・健康課題 |
| 第8回 (5/29) 45分授業 | 学習指導と生徒指導をめぐる今後の諸課題 | 本授業のふりかえりとまとめ |

| | |
|-----------|---|
| 履修条件 | 教職課程履修者他 |
| 予習・復習 | 予習として配布資料を熟読のこと。復習はレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、ノートに内容を整理した後、課題に取り組むこと。 |
| テキスト | 特になし。授業内で適宜、資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 | 折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』(改訂版)学文社、2014年、文部科学省『生徒指導提要』2022年。 |
| 学生に対する評価 | 学習態度(20%)、ディスカッションへの参加(30%)、レポート(50%)による総合評価。 |

| | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-------------------------------|-------------------|-----------------------------|
| 授業 科目名 | 教育相談 (Educational Counseling) | 履修年次: 栄養 3年(教職課程選 択者必修) | 単位数: 2 单位 コード: | 担当教員名: 鈴木 淳子 (非常勤講師室) |
| | | 実務経験のある教員による授業科目 | | |

[DP] II コミュニケーション能力、III 実践に必要な知識、VI 多職種との協働

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業では、学校での教育相談に必要な知識と理論を習得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。

- ① 教育相談の目的と意義を理解し、説明できるようになる
- ② 教育相談の基本的な知識を身に付け、実践に活かしていく

[授業の概要] 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心的特質や教育的課題を捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングマインドの意義、理解や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

キーワード:

[授業計画] (12月23日は1限のみ)

| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 |
|------|--------|-------------|--------------------------|
| 第1回 | 12月2日 | 教育相談の歴史と意義 | 教育相談の歴史と意義 |
| 第2回 | 12月2日 | 教育相談の技法 | 教育相談で使われている技法 |
| 第3回 | 12月9日 | さまざまな発達 | さまざまな観点から見たヒトの発達 |
| 第4回 | 12月9日 | コミュニケーション | バーバル・ノンバーバルコミュニケーション |
| 第5回 | 12月16日 | 発達障がいの理解Ⅰ | 自閉スペクトラム症、ADHD |
| 第6回 | 12月16日 | 発達障がいの理解Ⅱ | 極限性学習症(LD) |
| 第7回 | 12月23日 | ストレス | ストレスの理解と対処法 |
| 第8回 | 1月6日 | 学校不適応Ⅰ | 不登校の現状把握と対策 |
| 第9回 | 1月6日 | 学校不適応Ⅱ | いじめの現状把握と対策 |
| 第10回 | 1月13日 | 学校不適応Ⅲ | 非行・反社会的行動の現状把握と対策 |
| 第11回 | 1月13日 | 虐待と自殺 | 虐待や自殺の現状把握と対策 |
| 第12回 | 1月20日 | 特別な教育的ニーズ | 特別な教育的ニーズを必要としている児童生徒の理解 |
| 第13回 | 1月20日 | 進路指導とキャリア教育 | 進路指導とキャリア教育 |
| 第14回 | 1月27日 | 心のケア | 災害時における教員に求められる心構え |
| 第15回 | 1月27日 | 教育格差と本講義の総括 | 教育格差について理解し、本講義の振り返りをする |

| | |
|-----------|--|
| 履修条件 | 特になし |
| 予習・復習 | 復習：授業資料を見直し、講義内容を振り返る |
| テキスト | 使用しない |
| 参考書・参考資料等 | 特になし |
| 学生に対する評価 | 試験(50%)、グループワーク(15%)、ミニ課題(25%)、学習態度(10%)により総合的に評価する。 |

| | | | | |
|-----------|---|---|--------------------|--|
| 授業 科目名 | 教職実践演習（栄養教諭） Practical Training for Teaching Profession (Nutrition educator) | 履修年次: 自由：栄4年 <small>(教職課程選択者必修)</small> | 単位数: 2 単位 30 時間 | 担当教員名: <u>科目責任者 広川 由子</u> <small>(研究室 図書館棟 10)</small> |
| | | | コード: NTT401 | <small>鈴木亜夕帆</small> <small>(研究室 教育棟 A214)</small> |

[DP] IV. 健康づくりの実践 VI. 他職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽

[授業の到達目標及びテーマ]

本授業では、これまでの学修をふりかえりつつ、栄養教諭としての自己の力量を確認し、不足している知識や技能を補うことを目的とする。本授業の到達目標は、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童・生徒を理解する能力および生徒指導力、④栄養教諭の専門的知識、⑤「食に関する指導」力を獲得し、子どもたちを前に実践できるようになることである。

[授業の概要]

本授業は、教職に関する科目担当教員（広川）と、栄養に係る教育に関する科目担当教員（鈴木）がオムニバスにて行う。大学4年間で学んだ教職に関する知識の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な資質能力が身に付いているかどうかを学生および教員が相互に点検し、自己の到達点を自覚する。さらにそれを補いつつ、生涯にわたって学び続けるスキルを獲得する授業を提供する。学校訪問やロールプレイング、現職教員および教職経験者を交えた討論等により、実際に教壇に立つための実践力と問題解決能力を養う。

キーワード: 栄養教諭、資質・能力の向上、ICT活用力、チーム学校、教育DX

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ 一 マ | 内 容 | 担当 |
|------|-------|-------------------|-----------------------------|--------|
| 第1回 | 10/1 | オリエンテーション | 教職カルテを用いた学修の振り返り | 広川由子 |
| 第2回 | 10/8 | 社会性・対人関係能力① | 保護者との人間関係構築 | 広川由子 |
| 第3回 | 10/15 | 社会性・対人関係能力② | 地域の関係者との人間関係構築 | 広川由子 |
| 第4回 | 10/22 | 教職の意義・教員の役割① | 子どもの権利（特別講義） | 特別講義講師 |
| 第5回 | 10/29 | 授業づくり・実践① | 模擬授業とグループ討論① | 広川由子 |
| 第6回 | 11/5 | 授業づくり・実践② | 模擬授業とグループ討論② | 広川由子 |
| 第7回 | 11/12 | 授業づくり・実践③ | 模擬授業とグループ討論② | 広川由子 |
| 第8回 | 11/19 | 前半授業の振り返り | 自身の学びの振り返り | 鈴木亜夕帆 |
| 第9回 | 11/26 | 授業検討 | 主体的・対話的・深い学び、個別最適、協働的な学びの検討 | 鈴木亜夕帆 |
| 第10回 | 12/3 | 教職の意義・教員の役割② | 教職の未来（特別講義） | 特別講義講師 |
| 第11回 | 12/10 | 個別的な相談指導 | 子どもと保護者、教職員との連携 | 鈴木亜夕帆 |
| 第12回 | 12/17 | 教師自身による「深い学び」の実践① | 探究の実践 | 鈴木亜夕帆 |
| 第13回 | 1/7 | 教師自身による「深い学び」の実践② | 探究の実践報告 | 鈴木亜夕帆 |
| 第14回 | 1/14 | 学校現場の見学・調査 | 実地研修 | 鈴木亜夕帆 |
| 第15回 | 1/21 | この授業全体のふりかえり | 資質・能力の確認とまとめ | 広川・鈴木 |

履修条件 教職実践演習を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を修得済みであること。且つ、教育実習単位を修得済みであるか、または教育実習履修年度であること。

予習・復習 予習として配布資料を熟読のこと。復習は、課題・レポートに取り組むこと。

テキスト これまでの栄養教諭課程、管理栄養士課程のテキストおよび配布資料。

参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価 学習態度（20%）、課題・レポート（40%）、発表・討議（40%）

| | | | | |
|-----------|---|--|---------------------------------------|---|
| 授業 科目名 | 栄養教諭教育実習事前・ 事後指導 (Guidance for Practical Training: Diet and Nutrition educator) | 履修年次: 自由 栄4年 (教職課程選択者 必修) | 単位数: 1 単位 45 時間 コード: NTT402 | 担当教員名: 渡辺 優奈 [管理栄養士、栄養教諭] (教育棟 A214 研究室) |
| | | 実務経験のある教員による授業科目 | | |

[DP] I 倫理観とプロフェッショナリズム, III 実践に必要な知識, II コミュニケーション能力

[授業の到達目標及びテーマ]

事前指導においては、教育実習の内容全体を把握し、実習の際に求められる基礎的な事柄を身につけ、自分なりに目標を持つことができる。事後指導においては、実習を通じて学んだこと（優れた点及び反省点）を主体的に振り返り、今後の課題を整理し、実習の意義を理解する。

[授業の概要]

本授業は、教職課程の集大成であり実務の実際を行う「栄養教諭教育実習」のための重要な科目と位置付けられる。事前指導では指導案及び教育媒体を作成し模擬授業を行い、お互いに検討する。事後指導では、報告会を通して教育実習の自己の振り返り及び他履修者と意見交換することで学びを深める。栄養教諭・一般教員の実務経験に基づき教育実習で求められる基本的な事柄や指導案作成についての学習支援を行う。

キーワード: 栄養教諭、教育実習、事前指導、事後指導、児童・生徒、学校、教員

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ ー マ | 内 容 |
|-----------|--|----------------|------------------------------|
| 第1回 | 別途設定 | オリエンテーション | 教育実習及び実習ノート・テキストについて |
| 第2回 | | 教育実習の心構え | 栄養教諭教育実習の意義・目的、留意点等 |
| 第3回 | | 栄養教諭教育実習を学ぶ（1） | 教育実習に臨むにあたって一般教諭から講話（特別講義講師） |
| 第4回 | | 栄養教諭教育実習を学ぶ（2） | 教育実習に臨むにあたって栄養教諭から講話（特別講義講師） |
| 第5回 | | 児童理解 | 実習校への事前訪問、アセスメント |
| 第6回 | | 指導案の検討（1） | 指導案作成、板書計画立案 |
| 第7回 | | 教材研究 | 授業を実施するための教材研究 |
| 第8回 | | 模擬授業（1） | 模擬授業とフィードバック |
| 第9回 | | 模擬授業（2） | 模擬授業とフィードバック |
| 第10回 | | 指導案の検討（2） | 第1案の振り返り、第2案の作成 |
| 第11回 | | 事前指導 | 実習後の提出物、実習中の大学との連絡方法等の緒注意 |
| 第12回 | | 事後指導 | お礼状の作成、事後のまとめ、報告会等オリエンテーション |
| 第13回 | | 報告会の準備 | プレゼンテーションのまとめ、発表準備 |
| 第14回 | | 教育実習報告会 | 発表、模擬授業の実践と意見交換、次年度生への伝達指導 |
| 第15回 | | まとめ | 実習報告書のまとめ、個人での振り返り |
| 履修条件 | 管理栄養士課程「臨床栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」の単位及び3年次までに配当された栄養教諭に関する科目の単位を修得済みであること | | |
| 予習・復習 | 教材研究や指導案作成等のため、予習・復習に本授業の2倍程度の時間を要する | | |
| テキスト | 教育実習ノート（大学作成）、その他プリントなど | | |
| 参考書・参考資料等 | 文部科学省「学習指導要領」「食に関する指導の手引（第二次改訂版）」など | | |
| 学生に対する評価 | 事前・事後学習での授業態度（40%）、模擬授業・事後報告会での発表（40%）、レポート等の提出物の内容（20%）により総合的に評価する | | |

| | | | | |
|-----------|---|------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 授業 科目名 | 栄養教諭教育実習 (Practical Training: Diet and Nutrition educator) | 履修年次: 自由 栄4年 (教職課程選択者 必修) | 単位数: 2 単位 90 時間 コード: NTT403 | 担当教員名: 渡辺 優奈 [管理栄養士、栄養教諭] (教育棟 A214 研究室) |
| | | 実務経験のある教員による授業科目 | | |

[DP] III 実践に必要な知識, II コミュニケーション能力, IV 多職種との協働

[授業の到達目標及びテーマ]

これまでに学んだ基礎知識を基に、実際の教育現場における10日間の実習を通じて、児童・生徒への接し方、教員として身につけるべき基本的態度、食に関する指導案の作成能力等を修得する。

[授業の概要]

健全な子どもの発育発達のために、栄養教諭への期待は大きい。管理栄養士課程及び栄養教諭課程で学んだ集大成として学校において「栄養教諭教育実習」を行う。実習校の教員と連携して行う実習科目である。主に実習校の指導教員のご指導のもと、創意工夫し、栄養教諭の職務の実際を行う。指導案及び教材を作成し授業を行い、評価、助言など頂く。それを記録し、まとめることにより栄養教諭の実際を理解する。

キーワード: 栄養教諭、教育実習、児童・生徒、学校、教員

[授業計画]

| 回 数 | 日付 | テ　ー　マ | 内　　容 |
|-------------|-----------------------|--|---|
| 第1～ 第10回 | 個 別 に 決 定 | 実習校でのオリエンテーション | 学校経営、公務分掌の理解、服務等 |
| | | 児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習 | 指導、相談の場の参観、補助等 |
| | | 児童及び生徒への強化、特別活動等における指導の実際、その理論と技法についての実習 | 学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 |
| | | | 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 |
| | | | 児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 |
| | | | 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等 |
| | | 食に関する研究授業の実施 | 事前指導 研究授業の実施 指導教諭等による研究授業の総評、事後指導 |
| | | 食に関する指導の連携、調整の実習 | 校内における連携、調整、研究授業の企画立案、校内研修等の参観、補助 家庭、地域との連携、調整の参観、補助 |

| | |
|-----------|--|
| 履修条件 | 管理栄養士課程「臨床栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」の単位及び3年次までに配当された栄養教諭に関する科目の単位を修得済みであること |
| 予習・復習 | 予習：実習校での実習把握や指導案作成に10時間程度、復習：実習ノートのまとめ等に5時間程度が必要である |
| テキスト | 教育実習ノート（大学作成）、その他プリントなど |
| 参考書・参考資料等 | 文部科学省「学習指導要領」「食に関する指導の手引（第二次改訂版）」など |
| 学生に対する評価 | 実習への完全参加が基礎条件。実習校からの評価（80%）と実習ノートの内容（20%）により総合的に評価する |